

研究指導教員の決定方法について

知能情報工学分野 博士前期課程

■研究指導教員の役割

1. 研究指導教員は、学生の希望する研究課題、教員の専門分野、指導環境などを考慮し、学生の同意を得た上で研究課題を決定し、研究指導を行う教員である。
2. 研究指導教員は、研究指導に加え、学生の教育・研究に必要となる授業科目について、シラバスと履修モデルを参考にして個々の学生の指導を行う。
3. 研究指導教員は、学生の希望と適性等を考慮して学生ごとに1名以上を決定する。

■研究指導教員の決定プロセス

大学院博士課程入学者の研究指導教員の決定のプロセスは以下のとおりである。

・本学工学域情報工学課程からの進学の場合

学域で3回生後期に研究室配属の形で研究指導教員が決定され、以降、卒業研究を行った後も引き続き、当該研究指導教員が大学院における研究指導を行う。大学院進学時に研究室変更の希望を申請することができ、関係教員レベル間の調整の結果、了承が得られれば研究指導教員を変更できる。

なお、学域での研究指導教員の決定方法は次の通りである。学域3回生前期末時に各研究室での研究活動の詳細と準備する卒業研究テーマを全学生に説明する。そのうえで、基本的には学生の希望に沿って、希望が競合する場合は成績を考慮して配属先研究室が決定される。配属後は研究室毎に適宜学生の希望と適性等を考慮して研究テーマが決定され、そのテーマを担当する教員が研究指導教員となる。

・他大学または本学工学域情報工学課程以外の課程からの入学者の場合

1. 志願者は、募集要項の担当教員表等をもとに、事前に希望する教員への研究室訪問や面談を行い、出願書類の志望理由書に「入学後の研究希望内容」を記載する。
2. 入試時の面談及び出願書類の志望理由書に記載の「入学後の研究希望内容」をもとに、学生の希望を調査する。
3. 必要に応じて、入学手続者（入学予定者）に対して、「研究指導教員と研究テーマ」に関する複数の希望とその優先順位を調査する。
4. 上記の希望調査結果をもとに、特定の教員が過負荷にならないよう配慮しつつ、分野教授会において研究指導教員を決定する。
5. 決定された研究指導教員を入学前までに入学手続者に連絡する。

■副指導教員制度

1. 副指導教員は、研究指導教員と協力して学生の研究指導を補助的に行う教員である。
2. 副指導教員は、上記に加え、研究指導教員の指導についての相談やアドバイスをを行う。
3. 副指導教員は、学生の同意を得た上で、研究指導教員が1名以上を決定する。

■研究指導計画

1. 研究計画の立案（1年次4月～7月）
 - (1) 学生は、決定した研究課題に関して先行研究の整理、仮説の設定を行い、研究計画を立案する。
 - (2) 研究指導教員は、学生が研究計画を立案するに当たって、研究方法・文献検索方法・文献読解方法などを指導する。
 - (3) 学生と研究指導教員は、協力して研究指導計画書を作成し、副指導教員が確認したうえで、分野主任に提出するとともに、各自で保管し適宜両者の協議のもとで修正を加える。
2. 研究の遂行（1年次8月～2年次12月）
 - (1) 学生は、研究計画に従って研究を遂行する。1年次では、主に研究方法の確立、予備実験、調査などを行う。2年次では、決定した研究方法にて研究課題に取り組み、データ収集・解析等を行い、研究結果をまとめる。
 - (2) 研究指導教員は、研究の進行を確認しつつ、実験・調査等の手技の指導やデータ解析の指導等を行い、研究結果をまとめさせる。
 - (3) 研究指導教員は、研究の進捗状況について適宜確認し、研究の進捗状況に応じた指導を行う。
3. 研究経過の中間報告（2年次9月）

学生は、研究指導教員をはじめとする分野の教員が参加するポスター発表会にて研究経過を報告する。
4. 修士論文の作成（2年次1月～3月）
 - (1) 学生は、中間報告までの研究成果をもとに修士論文の作成を開始し、研究指導教員のもとで修士論文をまとめる。
 - (2) 研究指導教員は、修士論文の構成や図表の作成、文献の整理・引用等、論文のまとめ方を指導する。
5. 修士論文の提出（2年次3月中旬）

学生は、修士論文の草稿を2月の指定した期日までに、最終稿を3月の指定した期日までに提出する。

研究指導教員は、研究指導報告書を作成し、副指導教員の確認を経て、期日までに分野主任に提出する。

研究指導教員の決定方法について

知能情報工学分野 博士後期課程

■研究指導教員の役割

1. 研究指導教員は、学生の希望する研究課題、教員の専門分野、指導環境などを考慮し、学生の同意を得た上で研究課題を決定し、研究指導を行う教員である。
2. 研究指導教員は、研究指導に加え、学生の教育・研究に必要となる授業科目について、シラバスと履修モデルを参考にして個々の学生の指導を行う。
3. 研究指導教員は、学生の希望に基づき学生ごとに1名以上を決定する。

■研究指導教員の決定プロセス

大学院博士後期課程入学者の研究指導教員の決定のプロセスは以下のとおりである。

本学工学研究科知能情報工学分野からの進学の場合

博士前期課程における研究指導教員が引き続き研究指導教員となる。

他大学または本学工学研究科知能情報工学分野以外の分野からの入学者の場合

1. 志願者は、募集要項の担当教員表等をもとに、事前に希望する教員への研究室訪問や面談を行い、出願書類の入学願書に「指導を希望する教員名」、志望理由書に「入学後の研究希望内容」を記載する。
2. 入試時の面談及び出願書類の入学願書に記載の「指導を希望する教員名」および志望理由書に記載の「入学後の研究希望内容」をもとに、分野教授会において研究指導教員を決定する。
3. 決定された研究指導教員を入学前までに入学手続者（入学予定者）に連絡する。

■研究指導計画

1. 研究計画の立案（1年次4月～7月）
 - (1) 学生は、決定した研究課題に関して先行研究の整理、仮説の設定を行い、研究計画を立案する。
 - (2) 研究指導教員は、学生が研究計画を立案するに当たって、研究方法・文献検索方法・文献読解方法などを指導する。
 - (3) 学生と研究指導教員は、協力して研究指導計画書を作成し、副指導教員が確認したうえで、分野主任に提出するとともに、各自で保管し適宜両者の協議のもとで修正を加える。
2. 研究の遂行（1年次8月～3年次9月）
 - (1) 学生は、研究計画に従って研究を遂行する。1年次では、主に研究方法の確立、予

備実験、調査などを行う。2 年次および 3 年次では、決定した研究方法にて研究課題に取り組み、データ収集・解析等を行い、研究結果をまとめる。

(2) 研究指導教員は、研究の進行を確認しつつ、実験・調査等の手技の指導やデータ解析の指導等を行い、研究結果をまとめさせる。

(3) 研究指導教員は、研究の進捗状況について適宜確認し、研究の進捗状況に応じた指導を行う。

3. 研究経過の中間報告（1 年次 9 月）

学生は、研究指導教員をはじめとする分野の教員が参加するポスター発表会にて研究経過を報告する。ただし、社会人学生については、分野教授会が認めた場合、中間報告の機会を別に設ける。

4. 博士論文の作成（3 年次 10 月～1 月）

(1) 学生は、研究成果をもとに博士論文の作成を開始し、研究指導教員のもとで博士論文をまとめる。

(2) 研究指導教員は、博士論文の構成や図表の作成、文献の整理・引用等、論文のまとめ方を指導する。

(3) 学生は、予備審査で、主査教員と副査教員を含む教員から博士論文内容の評価を受け、指摘事項を修正する。

5. 博士論文の提出（3 年次 1 月もしくは 2 月）

学生は、博士論文を指定された期日までに提出する。

研究指導教員は、研究指導報告書を作成し、副指導教員の確認を経て、期日までに分野主任に提出する。

6. 公聴会（3 年次 1 月もしくは 2 月）

学生は、主査教員、副査教員が出席する公聴会で博士論文内容の報告を行う。